別紙様式2号

都道府県事業実施状況報告書及び評価報告書

整備事業

Ⅰ　産地競争力の強化を目的とする取組

（北海道　平成25年度）

振興局名	市町村名	事業実施主体名	作物等区分①（対象作物・畜産等名）①	成果目標の具体的な内容①	事業実施後の状況① 計画時（平成22年）	1年後（平成23年）	2年後（平成24年）	3年後（平成25年）	目標値（平成25年）	達成率	成果目標の具体的な実績①	成果目標の具体的な実績 2年後（平成21年）	成果目標の具体的な実績 3年後（平成22年）
石狩	当別町	金沢乾燥施設利用組合	土地利用型作物（麦）	【土地利用型作物（麦）】（は種前契約数量に関する目標）民間流通におけるは種前契約の数量を27.7%増加	256t	379t	363t	332.0t	327t	107.0%	種前契約の数量が29.7%増加し、目標を達成した	–	–
胆振	安平町	とまこまい広域農業協同組合	土地利用型作物（麦）	【土地利用型作物（麦）】（は種前契約数量に関する目標）民間流通におけるは種前契約の数量を5.1%増加	2,121t	–	2,097t	2,241t	2,231t	109.1%	播種前契約数量が5．7%増加し、目標を達成した		
胆振	むかわ町	鵡川農業協同組合	野菜（トマト・ホウレン草）	【野菜】（流通コストの削減に関する目標）・流通コストを18.6%削減	118円/ケース	–	–	97円/ケース	96円/ケース	94.5%	流通コストを17.8%削減し、概ね目標を達成した		
檜山	せたな町	栄農業生産組合	土地利用型作物（稲）	【土地利用型作物（稲）】（生産コストの削減に関する目標）10a当たり物材費を6.1%削減	63,997円/10a	–	62,191円/10a	60,726円/10a	60,097円/10a	83.9%	10a当たり物材費を5.1%削減したが目標は達成しなかった		
上川	美瑛町	美瑛町農業協同組合	野菜（トマト）	【野菜】（品質向上に関する目標）・秀品の割合を6ポイント増加	（平成23年度）38.00%	–	42.70%	44.30%	44.0%	105.0%	秀品率が6.3ポイント増加し、目標を達成した		
上川	美瑛町	美瑛町農業協同組合	野菜（スィートコン）	【野菜】（契約取引に関する目標）・契約取引の割合を37.8ポイント増加	（平成23年度）33.50%	–	55.10%	66.70%	71.3%	87.8%	契約取引割合が33.2ポイント増加したが、目標は達成しなかった		
上川	美瑛町	美瑛町農業協同組合	土地利用型作物（麦）	【土地利用型作物（麦）】（品質向上に関する目標）小麦作付面積に占めるパン・中華めん用品種を11.8ポイント増加	（平成23年度）19.90%	–	26.30%	23.20%	31.7%	28.0%	パン・中華めん用品種の作付け割合が3.3ポイント増加したが、目標は達成しなかった		
留萌	羽幌町	オロロン農業協同組合	土地利用型作物（稲）	【土地利用型作物（稲）】（品質向上に関する目標）タンパク値を1ポイント削減	（平成23年度）8.10%	–	6.93%	6.97%	7.1%	113.0%	タンパク値を1.13ポイント削減し、目標を達成した		
オホーツク	北見市置戸町	きたみらい農業協同組合	地域作物・地域特産物（いも類）	【土地利用型作物（稲）】（契約取引割合に関する目標）契約取引割合が14.7ポイント増加	25.90%	–	53.80%	47.10%	40.6%	144.2%	契約取引割合が81.9%増加し、目標を達成した		
オホーツク	網走市大空町	網走市	土地利用型作物（麦）	【土地利用型作物（麦）】（は種前契約の数量に関する目標）・民間流通におけるは種前解約数量が20.7%増加	22,002t	–	–	23,993t	26,556t	43.7%	播種前契約数量9.0%増加したが、目標は達成しなかった		
オホーツク	大空町	（株）吉田農園	地域作物・地域特産物（いも類）	【地域作物・地域特産物（いも類）】（販売数量の増加に関する目標）・食用馬鈴しょの販売数量を254%増加	650t	646t	1,160t	1,671t	2,300t	61.9%	販売数量が157%増加したが、目標は達成しなかった		
十勝	士幌町	士幌町農業協同組合	地域作物・地域特産物（いも類）	【地域作物・地域特産物（いも類）】（販売金額の増加に関する目標）・食用馬鈴しょの販売金額を6.96%増加	8,537,576千円	–	8,769,676千円	9,890,192千円	9,131,677千円	227.7%	販売金額が15.8%増加し、目標を達成した		
十勝	中札内村	中札内村農業協同組合	野菜（えだまめ、いんげん）	【野菜（えだまめ、いんげん）】（加工又は外食・中食向け野菜の出荷割合の増加に関する目標）・野菜の全出荷量に占める加工又は外食・中食向け野菜の出荷割合を5.3ポイント増加	43.80%	–	54.10%	57.70%	49.1%	262.3%	加工又は外食・中食向け野菜の出荷割合が13.9ポイント増加し、目標を達成した		
新規	13地区												

振興局名	市町村名	作物等区分②（対象作物・畜産等名）②	政策目	成果目標の具体的な内容②	事業実施後の状況② 計画時（平成22年）	1年後（平成23年）	2年後（平成24年）	3年後（平成25年）	目標値（平成25年）	達成率	成果目標の具体的な実績②	成果目標の具体的な実績② 2年後（平成21年）	成果目標の具体的な実績② 3年後（平成22年）
石狩	当別町	土地利用型作物（麦）	品質向上	【土地利用型作物（麦）】（品質向上に関する目標）小麦作付面積に占めるパン・中華めん用品種を30.5%増加	0.0ha	0.0ha	3.4ha	21.0ha	19.0ha	110.5%	パン・中華めん用品種作付面積が33.8%増加し、目標を達成した		
石狩	当別町	土地利用型作物（麦）		【土地利用型作物（麦）】複数品種等による作付体系（最上位品種以外比率が26%）	0.0%	0.0%	4.7%	27.3%	26.0%	105.0%	最上位品種以外比率が27.3%となり目標を達成した		
胆振	安平町	土地利用型作物（麦）	品質向上	【土地利用型作物（麦）】（品質向上に関する目標）1等麦比率を15ポイント増加	35.5%	35.5%	69.9%	40.3%	50.5%	32.0%	1等麦比率が4.8ポイント増加したが目標は達成しなかった		
胆振	むかわ町	野菜（トマト・ホウレン草）	品質向上	【野菜】（品質向上に関する目標）秀品の割合を3ポイント増加	74.2%	–	–	70.3%	77.2%	−130.0%	秀品の割合が3.9ポイント減少し、目標は達成しなかった		
檜山	せたな町	土地利用型作物（稲）	生産性向上	【土地利用型作物（稲）】（品質向上に関する目標）1等比率を7.15ポイント増加	87.11%	–	93.70%	92.00%	94.26%	68.4%	1等比率が4.89ポイント増加したが、目標は達成しなかった		
上川	美瑛町	野菜（トマト）	生産性向上	【野菜】（単収の増加に関する目標）・10a当たり収量を10.0%増加	（平成23年）10,496円/10a	–	11,500円/10a	10,884円/10a	11,500円/10a	38.6%	10a当たり収量が3.7%増加したが、目標は達成しなかった		
上川	美瑛町	野菜（スィートコン）	生産性向上	【野菜】（加工向け割合の増加に関する目標）・全出荷量のうち加工向け割合を5.4ポイント増加	（平成23年）71.1%	–	81.1%	79.2%	76.5%	150.0%	加工向け割合が8.1ポイント増加し、目標を達成した		
上川	美瑛町	穀類乾燥調製貯蔵施設等再編利用	生産性向上	【穀類乾燥調製貯蔵施設等再編利用】（施設の利用率向上に関する目標）施設の利用率を5.2ポイント増加	（平成23年度）94.8%	–	114.0%	108.5%	100.0%	263.5%	施設の利用率が108%となり、目標を達成した		
留萌	羽幌町	土地利用型作物（稲）	生産性向上	【環境保全】（環境保全型農業に取り組む農業者の増加に関する目標）・事業受益農家のうち環境保全型農業に取り組む農業者の割合が6.0ポイント増加	10.1%	–	6.5%	6.5%	16.1%	−60.0%	環境保全型農業に取り組む農業者の割合が3.6ポイント減少し、目標は達成しなかった		
オホーツク	北見市置戸町	集出荷貯蔵施設等再編利用	生産性向上	【集出荷貯蔵施設等再編利用】（施設利用率の向上に関する目標）・施設の利用率を17.4ポイント増加	82.6%	–	86.5%	50.5%	100.0%	−184.5%	利用率が50.5%となり、目標は達成しなかった		
オホーツク	網走市大空町	穀類乾燥調製貯蔵施設等再編利用（麦）	品質向上	【穀類乾燥調製貯蔵施設等再編利用】（施設の利用率向上に関する目標）再編後の利用率が100%	–	–	–	81.0%	100.0%	81.0%	利用率が81%となり、目標は達成しなかった		
オホーツク	大空町	野菜（レタス）	品質向上	【野菜（レタス）】（契約取引の割合の増加に関する目標）・全出荷量に占める契約取引の割合を30ポイント増加	60.0%	75.0%	85.0%	90.0%	90.0%	100.0%	契約取引割合が30ポイント増加し、目標を達成した		
十勝	士幌町	地域作物・地域特産物（いも類）	生産性向上	【畑作物・地域特産物（いも類）】（労働時間の削減に関する目標）・10a当たり労働時間を11.12%削減	12.41hr/10a	–	11.03hr/10a	11.03hr/10a	11.03hr/10a	100.0%	10a当たり労働時間を11.12%削減し、目標を達成した		
十勝	中札内村	野菜（えだまめ、いんげん）	生産性向上	【野菜（えだまめ、いんげん）】（ブランド野菜の出荷割合の増加に関する目標）・全出荷量に占めるブランド野菜の割合を26.7ポイント増加	0.00%	–	0.00%	0.00%	26.7%	0.0%	ブランド野菜の割合が増加せず、目標は達成しなかった		
新規	13地区												

振興局名	市町村名	事業内容（実績）	事業費（円）	負担区分（円）交付金	都道府県費	市町村費	その他	完了年月日
石狩	当別町	穀類乾燥貯蔵施設 乾燥施設 遠赤外線乾燥機（8t×4基） 粗選機（20t/h×1基） 放冷タンク（8t×4基） 出荷設備一式	35,700,000	17,850,000	0	0	17,850,000	H24.8.3
胆振	安平町	穀類乾燥調製貯蔵施設 循環式乾燥機　15t×2基	417,900,000	19,900,000	0	0	398,000,000	H24.7.20
胆振	むかわ町	野菜選果貯蔵集出荷施設 建物　1棟 トマト共選ライン　1基2レーン ホウレン草共選ライン　1基 予冷庫　2基 電動リフト　2台 梱包機　2台 情報処理システム　1式	360,576,300	161,620,000	0	0	198,956,300	H25.2.27
檜山	せたな町	乾燥調製施設 乾燥整備 粗選機 他付帯設備	42,840,000	21,420,000	0	0	21,420,000	H24.8.17
上川	美瑛町	共同育苗施設 建物　1棟　480㎡	53,550,000	25,500,000	0	0	28,050,000	H24.10.31
上川	美瑛町	農産物加工処理施設 真空凍結乾燥機一式 煮釜・ペースト製造器一式	108,150,000	51,500,000	0	0	56,650,000	H24.8.20
上川	美瑛町	穀類乾燥調製貯蔵施設 もみがら処理加工施設 18,000t	140,700,000	67,000,000	0	0	73,700,000	H24.8.20
留萌	羽幌町	穀類乾燥調製貯蔵施設 建物（籾殻庫）×1棟 サイロ500t×4基 乾燥設備10t×6台一式 貯蔵設備一式 籾摺調整設備4t×1台	403,200,000	192,000,000	0	0	211,200,000	H24.8.31
オホーツク	北見市置戸町	集出荷貯蔵施設 ばれいしょ選果施設' 選果機（　120t/日　） 中心空洞判定装置　19台' 置戸制御機器更新・ 青果物センター改修工事	1,189,440,000	566,400,000	0	0	623,040,000	H24.11.26
オホーツク	網走市大空町	【穀類乾燥調製貯蔵施設等再編利用】 建物　1棟 乾燥設備　107t×3基 荷受設備　40t×3系列 貯留設備　60t×48室 貯蔵サイロ　650t×15基	3,399,060,000	1,699,530,000	0	0	1,699,530,000	H25.3.22
オホーツク	大空町	集出荷貯蔵施設 保冷庫　鉄骨平屋亜鉛葺1棟　172.64㎡　288t 保冷庫　鉄骨平屋亜鉛葺1棟　191.16㎡　288t 冷蔵庫　鉄骨平屋亜鉛葺1棟　184.68㎡　72t 作業庫　鉄骨平屋亜鉛葺1棟　97.20㎡	34,125,000	16,250,000			17,875,000	H24.3.31
十勝	士幌町	集出荷貯蔵施設 食用馬鈴薯受入検品施設 受入検品設備　1式 食用馬鈴薯選果施設 ケース自動倉庫　1式 ロボタイザー　4台 パレット倉庫　1式 種子馬鈴薯選別施設 種子選別施設　1式	617,400,000	294,000,000			323,400,000	H24.10.12
十勝	中札内村	農産物集出荷貯蔵施設 冷凍冷蔵庫　1棟（4,780.3㎡） フォークリフト　4台	1,396,290,000	661,791,000			734,499,000	H24.10.4
新規	13地区		8,198,931,300	3,794,761,000	0	0	4,404,170,300	

振興局名	市町村名	事業実施主体の評価	都道府県の評価	備考
石狩	当別町	受益農家戸数の離農等による減少があったが、パン・中華めん用小麦の種子確保等作付体系が確立することにより、成果目標を達成することができた。 また、遠赤外線乾燥機等の導入により乾燥速度が短縮され、収穫作業が円滑に実施されるようになった。 パン・中華めん用小麦については成果目標を達成できたものの、栽培技術が確立されていない面があり収穫量の安定に欠けるため、関係機関との連携により栽培技術の確立と啓発に努め、更なる小麦生産の増大と品質向上を目指したい。	事業計画どおり成果目標は達成された。	
胆振	安平町	小麦の播種前契約数量の増加については、H24の実績が好調だったことから播種前契約面積が計画時より120増加し、目標値を達成した。 しかし、1等麦比率の増加については、春先の低温による吸肥遅れで分けつ遅れ、その後の干ばつで、穂数不足、細麦となり収量、品質とも平年を大きく下回り、計画年比で4．8%増加という結果となった。 次年度については肥培管理、適期収穫、調整作業の更なる徹底を行い高品質と高収量の実現に努め、1等麦率向上を図っていく。	成果目標の達成状況については、播種前契約数量で目標対比109．09%と目標値を達成しているが、1等麦比率の増加で目標対比32%と目標達成には至っていない。 1等麦比率の増加の目標未達理由として、昨年の天候不良、特に干ばつの影響で細粒が多くなったことから収量、等級の低下を招いている。 しかしながら、励行技術の適正実施、適期収穫、調整作業の実施により1等麦比率40%を確保しており一定の事業効果は発現されていると判断する。 以上のとおり目標年については気象災害等により目標達成ができなかったが、目標達成に向けた必要な改善措置は既に図られており、引き続き目標達成へ向けた指導の継続を行っていく。	
胆振	むかわ町	秀品率低下については出荷最盛期の8月雨量が平年の1.2倍、平均気温も平年比1.3℃・最低気温も平年比1.5℃高かったことから成熟が早まり秀品率が低下した。また、湿度も高かったことから灰色カビの発生も多発し秀品率の低下につながった。次年度以降については普及センターを中心に栽培技術の指導を行うと共に、関係部署との連携を図り適期防除等の技術情報を提供していく。	成果目標の達成状況については、秀品率で目標対比－130%と目標達成には至っていない。 また、秀品率の低下については、高温による生育不順、湿害による病気の発生と異常気象の影響があったものと判断する。改善方針として、昨年の被害を踏まえて、普及センター、JAを中心に湿害対策を中心とした営農指導を実施しており、今後の秀品率の改善に期待ができる状況である。以上のとおり目標年については気象災害等により目標達成ができなかったが、目標達成に向けた必要な改善措置は既に図られており、引き続き、指導の継続を行う。	
檜山	せたな町	受益地内の平成25年産米は、天候の影響により腹白未熟が発生したことで、製品の歩留まり率は低下したものの、乾燥ムラや胴割れ等が導入前より減少し、一定程度の品質が確保され、1等比率については成果目標94.26%には届かなかったものの、計画時の87.11%を大きく上回る92.0%まで上昇した。 生産コストについても導入2年目となり、機械操作・受入調整などにも慣れ導入機器の能力が把握出来たことにより圃場での収穫作業とも連携し、効率的に最大限活用出来たため、成果目標である60,097円/10aには届かなかったものの、計画時より5.11%（3,271円/10a）減少し60,726円/10aとなりコスト低減に努めることが出来た。乾燥に要した時間は計画時より短縮されたことから、作業効率の向上及びコスト低減に繋がっている。 受益面積については、生産調整の影響もあり当地区内作付面積が減少となった。受益面積の集約化についても、個々の既存作業体系の兼ね合いで集約に至っていないが、引き続き周辺農家を取り込み共同作業を推進する。	生産コスト低減及び1等米比率向上に係る成果目標の達成には至らなかったものの、燃料費・肥料等高騰の影響がある中で、生産コストは、計画時よりも5.1%削減され、1等米比率は4.9ポイント向上してきており、次年度の目標達成は十分可能と考えている。 今後、振興局としては、農業改良普及センターと連携しながら、目標達成に向けた営農指導等助言を行っていきたい。	
上川	美瑛町	共同育苗施設の拡充によって良品質苗の生産することにより、等級比率における秀品率の増加がみられた。また、10a当たり収量についても春先の天候不順により定植後の初期生育に影響があり、また、夏場の高温による影響で計画時よりは10a当たり収量が3.7%増加したものの、目標値までには616kg少ない状況。 天候に影響されないよう今後とも、基本技術の励行による収量の増加を目指す。	定植時の天候不順により、10a当たり収量の10%増加の目標達成とはならなかったが、秀品率については目標を達成。状況に応じた栽培指導と気象状況に影響しない基本技術を関係機関連携して徹底していく。	
上川	美瑛町	真空凍結乾燥機の増設により、フリーズドライ商品の製造が増え、加工野菜の割合が伸びたが、契約取引については、契約外取引とともに需要が高まる時期が観光シーズンに集中することから、ピーク時の人員不足により一部、販売を抑制したことによる影響。今後は適正な人員確保により取引拡大を十分見込める。	契約取引の増加については、目標達成とならなかったものの、年々その割合を増加させており、次年度以降達成が見込まれることから、今後も、地域関係機関が連携し契約取引割合の達成に向けた指導の徹底を図ることとしている。	
上川	美瑛町	籾殻熱供給システムの活用により、一部の乾燥灯油を削減し、燃料コストの軽減が図られた。副産物として、籾殻燻炭を生産者に融雪剤・土壌改良剤として供給し、資源のリサイクルを行い、燃料コスト軽減・施設利用のさらなる負担軽減に努めます。	パン・中華麺用小麦については地域においても地産地消の取組において需要喚起を行っており、作付面積についても農協等が中心となって作付誘導を行っていることから今後達成する見込みがある。	
留萌	羽幌町	本事業を活用し、施設整備した評価として、地区の活用率の向上により、個々の乾燥調製の作業効率改善が図られることにより水稲作付面積（目標値1070.5haに対し1101.7ha達成率102.9%）を維持すると伴に、関連作物（小麦・大豆・飼料作物・そば）の面積拡大となっている。又、品質に於いても施設均一化により品質向上（タンパク値、目標値7.1%に対し6.97%達成率113%）・販売価格の向上となっている。 改善課題にあるとおり、環境保全型農業への取組は（目標値16.1%に対し6.5%達成率-60%取組農業者割合3.6ポイント減少）目標に達していない面があげられる、原因としては、水稲の規模拡大での効率化とし一般栽培で作業効率を上げ、タンパクの品質向上による米価格（低タンパク加算500円/60Kg）と肥料・農薬の制限の中で手間を掛けた特裁米の特色有る米の米価格（加算金500円/60Kg）が変わらないで中で反収は一般米の方が有ることでの反当たり収入の格差に有機肥料等の高騰、特色有る米の販売需要の拡大が一定量を超えられない等のことにより、取組農業者が減少していった原因と考えます。但し、一般米へ変更した農業者に於いては、低タンパク米出荷へ向け努力し、全体のタンパク低下を推進していけたとも考えます。 環境保全型農業への地域としての理解を今後も深める講習会等を推進し、販売面に於いても、掘り起こし需要の喚起を検討するとともに反収の増収・低価格肥料資材の模索を改善検討していきたいと考えます。	米の品質を左右する要素として適期収穫は重要であり、本施設の整備によりその一層の推進と、個々の生産者における乾燥調製の作業効率改善が行われ、特に管内一丸となって取り組んでいる低タンパクで高品質な米の生産に寄与し成果が上げられた。（当該農協管内産ななつぼしにおける6.8%以下の低タンパク米出荷割合　平成22年41%→平成25年83%） 一方、成果目標に掲げる特別栽培への取組は、施設整備以前においては特別栽培による団地を形成し意欲的に取り組まれてきたものの、「実施主体の評価」にある通り、極良食味であるゆめぴりかの登場とともに道産米全体の評価が高まり、一般米が特別栽培米に比べ反当り収入が上回る等、経済的な面での有利性が低下した背景などから、当該栽培からの離脱は事情やむを得ないとも考えられる。しかし、今後の社会情勢や消費者ニーズの変化等によって特別栽培米に係る取組が再度当該地域において差別化・有利販売を図る上で重要な戦略のひとつとなることも想定されることから、環境保全型農業の推進の重要性含め引き続き生産者へ働きかけを行うよう指導する。	
オホーツク	北見市置戸町	H25産馬鈴しょの生産量は全道的には干ばつ気象の影響により平年を下回る生産量となり、特に道東地区が大きく減収し全道主要産地間での収量差が大きい状況となりました。当JAは特に干ばつの影響が大きく前年比81.8%　平年比80.3%の反収となり近年にない減収した年度となりました。馬鈴薯耕作者の経営圧迫を最小限にするためやむを得ず置戸選果場を休止することで選果費用の抑制を図りましたが、消費地に対する安定出荷の面で課題を残す形となりました。これらを踏まえ、現在は生産組織による生産性向上対策プロジェクトを立ち上げ、異常気象に負けない生産力の確保に向けて、質・量の安定に取り組んでおります。	契約取引割合の増加については、契約取引割合47.1%と達成率144.2%で目標を達成した。再編後の施設稼働率については、H25産馬鈴しょにおいて干ばつによる収穫量の減少により50.5%と下がったことから、今後は関係機関と連携し、生産技術の向上による収穫量の維持を目指す必要がある。	
オホーツク	網走市大空町	民間流通麦における播種前契約数量については、目標数量26,556tに対し成果目標を20.7%増の26,556tとしていたが、実績では23,993tとなり増加率は9%と目標達成率は43.7%に留まったため、次年度以降は関係機関の協力を得ながら目標達成に努めたい。 また、再編後の穀類乾燥調製貯蔵施設の利用率については、7月の高温・干ばつの影響を受け収量が落ち込み目標32,705tに対し実績30,642tと利用率81.0%に留まったために、次年度以降については利用率100%に向け関係機関の協力を得ながら生産技術向上を図り目標達成に努めたい。	民間流通麦における播種前契約数量は達成率が43.4%、再編後の穀類乾燥調製貯蔵施設の利用率が83.0%と目標を達成することができなかった。 また、再編後の穀類乾燥貯蔵施設の利用率については、7月の高温・干ばつの影響を受けて収量の減少により利用率が下がったため、各目標について関係機関の協力を得ながら生産技術の向上を図り、目標達成に努めたい。	
オホーツク	大空町	住吉冷蔵庫は建設がレタス収穫時に間に合わず初年度は利用できなかったが、2年目からはスムーズな入出庫ができ、作業効率も格段と上がり、畑からの距離が近いため、レタスの品質も劣化することなく鮮度を保ち貯蔵することができた。また、馬鈴薯の保冷庫は既存施設とは別の種類の馬鈴薯を貯蔵し、温度・湿度管理の調整が図れ、品質を保ち貯蔵し、効率よく入出庫することができた。そのため、契約先からの要望にできるかぎり協力できる環境となり今後も施設を最大限活用し、さらに販路拡大を図る。	レタスについては、契約取引割合が90%、達成率が100%となり目標を達成した。馬鈴薯については、目標の2,300tに対し、1,671tと61.9%と未達成となったが、保管先の倉庫が賃貸できなくなった特殊事情が主な要因であり、今後新たに保管先が見つかれば平成26年度報告では達成が見込まれ問題ない状況と考える。	
十勝	士幌町	施設整備により、集荷速度の向上や共同種子消毒による労働時間の削減となり目標を達成できた。 また、集荷の能力向上により、適期による収穫・集荷の効率の上昇が図られ、歩留まり・品質が向上した事により 販売金額の増加につながり目標を達成することができた。	成果目標が達成され、施設利用状況も良好であることから、事業の目標が達成されたと判断する。	
十勝	中札内村	さやいんげんでイエスクリーンを取得し、100%ブランド野菜として作付してきているが、25年については24年産の製品を販売したことから25年産の販売には至らなかった。26年については在庫量からみて、販売量につながる見込みである。加工向け等については、積極的な商談会等の参加や、安全・安心な食材・原材料としてのブランド力から安定した販売実績となっており、目標数値を達成することができた。	全出荷量にしめる加工向け又は外食・中食向けの割合増加については、目標を達成しており、今後も引き続き取組むことが期待される。 また、全出荷量に占めるブランド野菜の割合増加に向けては、当初予定どおり「いんげん」を平成24年12月に「北のクリーン農産物（YES!clean）」を登録し、有利販売を目指しているが、前年産の在庫を優先して販売・出荷していることから、平成25年産販売は、今後の販売となる見込みである。 さらには、需給バランスを注視しながら有利販売等につなげる取り組みを進めていくことが必要である。	
新規	13地区			